

いちりん通信

No.39

促し方を変えてみる



【症例報告】

目黒区 A様 81歳 女性 円背による腰痛症 週2回治療

訪問時、娘様が「お母さん！朝から何も食べてないから、散歩ついでにコンビニでお弁当買ってきて！食べないと〇〇さんみたく、入院になるよ！」とイライラ声。

Aさんはお身体の線も細く、夏バテになってしまうと食も水分も細くなりがちです。

その1 ご家族とはいつも「言い合い」になってしまう…

「娘とはいつも言い合いになっちゃうのよ」とこぼすAさん。「水分や食事を摂るのが大事なのはわかるけど…ああ言われるとね…」。

そんな時、私たち外部の人間が関わることで、ご家族内の人間関係にも変化の兆しが現れます。施術者が「私もお腹空いているので、一緒にコンビニまで買い物に行きませんか？私この辺りの道、よくわからないので」と声をかけると、渋々ながら重い腰を上げて出かけるAさん。でも、いざお店に入ると、Aさんは「食べたいものある？私が買うから」と、お母さん顔に大変身！

その2 理由は、夏バテ？

Aさんは、なぜ食や水分が細くなってしまったのでしょうか？

もちろん、夏バテ気味ということがあります。でも、よくよく理由を伺うと「家族とは生活時間が違うでしょ？一人で食事をするのは寂しいのよね」とこぼすAさん。

そう、いつしか知らないうちに、Aさんは孤食になっていたのです。

その3 役割を変える

コンビニで買ってきたお茶で、Aさんは施術者と「乾杯〜！」そして一緒にお弁当を食べ始めました。すると「私も少し意地になっていたかもね」と本音がぼろり。

一緒に食べてくれる人がいる。お弁当を買ってあげたい人がいる。Aさんは「いつも援助される人」から「(施術者を)援助する人」に変わったのです。

役割を変えただけのシンプルな援助が、大切だったりするのですね。(S・J)

